

業務効率化に向けたクラウドサービスの利活用 庁内に Microsoft 365 の浸透を促す A10 Thunder CFW

顧客名：

鹿児島市

業種：

自治体

A10のソリューション：

A10 Thunder CFWによるローカルブレイクアウト

課題：

- DX推進のなかで業務効率化に向けた環境整備が求められた
- 先進的な他自治体同様、柔軟なクラウド活用に
に向けた環境整備を計画
- セキュアなαモデルのまま、Microsoft 365への
円滑なアクセスが必要に

導入効果：

- Microsoft 365 導入により、離れた支所間でも
Web 会議を円滑に活用
- A10 Thunder CFW を活用した環境整備により、
デジタル化に向けた意識醸成の後押しに
- Web 会議時に個別の環境貸し出しが不要に、
管理工数の削減にも寄与



鹿児島市

総務局 DX推進部
情報システム課
係長 小西 剛氏



鹿児島市

総務局 DX推進部
情報システム課
主査 濱田 龍氏 (現:交通局 総務課)



鹿児島市

総務局 DX推進部
情報システム課
主事 小段 康平氏



“ 今後は整備された環境を活用した職員のデジタル化への意識醸成と業務改善を図っていくこととなりますが、安全で安定的なローカルブレイクアウトに A10 Thunder CFW が貢献しています。 ”

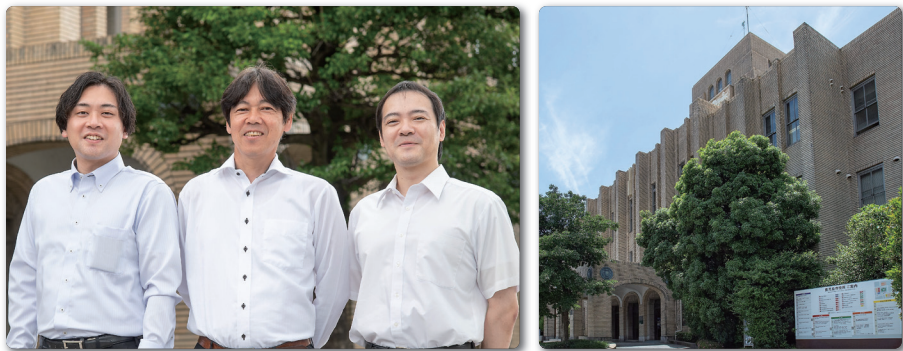
総務局 DX推進部 情報システム課 係長 小西 剛氏

“ A10 のソリューションは、他自治体での実績が多だけでなく、コストパフォーマンスが優れていることは誰しも感じているのではないのでしょうか。 ”

総務局 DX推進部 情報システム課 主査 濱田 龍氏 (現:交通局 総務課)

“ Web 会議が円滑に利用できるようになるため、コストや時間の削減が見込めます。コミュニケーションの活性化にも効果があります。 ”

総務局 DX推進部 情報システム課 主事 小段 康平氏



行政のデジタル化をトップダウンで進めている鹿児島市では、行政における業務効率化に向けた施策において、Microsoft 365 をはじめとしたクラウドサービスを円滑に利用できる環境整備を推進しています。既存のαモデルであっても利便性の高い基盤づくりに欠かせないローカルブレイクアウトを実現する環境として、A10 ネットワークス（以下、A10）が提供する「A10 Thunder® CFW」を採用しました。

課題：DX推進における柱の1つとしての業務効率化に向けた環境整備が必要に

鹿児島県の県庁所在地であり、桜島を有する中核市として多くの観光客が訪れる鹿児島市。島津家による城下町として栄え、山陽・九州新幹線の終着駅である鹿児島中央駅周辺や、南九州最大の繁華街である天文館地区など賑わいのあるエリアとともに、鹿児島湾を臨むエリアには多くの観光客が訪れています。

鹿児島市では以前から積極的なデジタル化への取り組みを進めています。現在は「ICTで住みよいまちへ」を基本理念とする第五次鹿児島市地域情報化計画を策定しており、DX推進計画を中心に「もっと便利な市民サービスの提供」「地域におけるデジタル化の推進」「ICTリテラシー向上の推進」「デジタル化による職員の働き方改革」という4つの基本方針に向けた各施策を実施しています。「多くの自治体が人口減少の局面にある今、DXを強力に推進することで業務の効率化を進め、さらに市民サービスの向上にも取り組んでいます。“行かなくてもいい市役所”“書かない窓口”といったデジタル化における恩恵を市民が実感できるような環境づくりを進めています」と総務局 DX推進部 情報システム課 係長 小西 剛氏は説明します。

マイナンバーの利用促進に向けた環境整備やコロナ禍など、外部環境の変化に伴って増え続ける職員の業務量軽減に向けて、そして持続可能な自治体運営には欠かすことのできない取り組みの1つとして、庁内の業務効率化を推進しています。DX推進の柱の1つである業務効率化において注目したのが、視察した他自治体での先進的な取り組みでした。「新庁舎に移転した渋谷区など、全職員がMicrosoft 365の利用を推進するデジタルワークスタイル改革に注目しました」と語るのは、情報システム課に所属し、現在は交通局 総務課に異動した 主査 濱田 龍氏です。

検証：セキュアなαモデルでローカルブレイクアウトを実現する A10 Thunder CFW

業務の効率化を目指す鹿児島市としても、チャットやWeb会議を活用したワークスタイルへの変革を実現するべく、新たな環境づくりの検討をスタートさせました。「やはりクラウドサービスの活用がベストだと判断しました。ただし、三層分離でセキュアなαモデルのネットワーク環境だったことから、LGWAN 接続系の端末でも外部のクラウドサービスを柔軟に活用できる環境づくりが求められました」と総務局 DX推進部 情報システム課 主事 小段 康平氏は説明します。当初はβおよびβ´モデルへの移行を検討したものの、全ての環境をインターネットに持っていくことは高いハードルがありました。

新たな環境づくりにおいてはMicrosoft 365などのクラウドサービスに対応し、頻繁に発生するドメイン変更への自動追従やアクセス時に必要なセッション数に耐えられるものが要件として必要と考えました。ローカルブレイクアウトを実現する環境づくりに向けてプロポーザル方式での入札を実施し、提案内容含めてコストパフォーマンスに優れた提案内容に含まれていたのがA10 Thunder CFWでした。「他自治体の事例やコストパフォーマンスも考慮すると、A10のソリューションが有力だという感覚は持っていました」と濱田氏は語ります。

特に今回はコミュニケーションツールを含めた新たなワークスタイルへの環境整備全般の入札だったこともあり、複数の企業が応札しましたが、Microsoft 365とともに安全なインターネットアクセスを実現するプロキシおよびローカルブレイクアウト可能なソリューションとして、A10 Thunder CFWが選択されました。

ソリューション：自治体におけるローカルブレイクアウトを実現する A10 Thunder CFW

明示型 / 透過型プロキシとして動作し、ユーザートラフィックの制御と可視化を可能にするA10 Thunder CFWは、セキュアWebゲートウェイやIPsec VPNなど企業に必要なセキュリティ機能を1ボックスで提供しており、DDoS防御機能など複数の機能集約が可能になります。自治体の三層分離におけるαモデルを維持したまま、利便性の高いネットワーク環境の実装が可能になります。

導入効果：4000人のローカルブレイクアウトを実現、Web活用の利活用促進に貢献

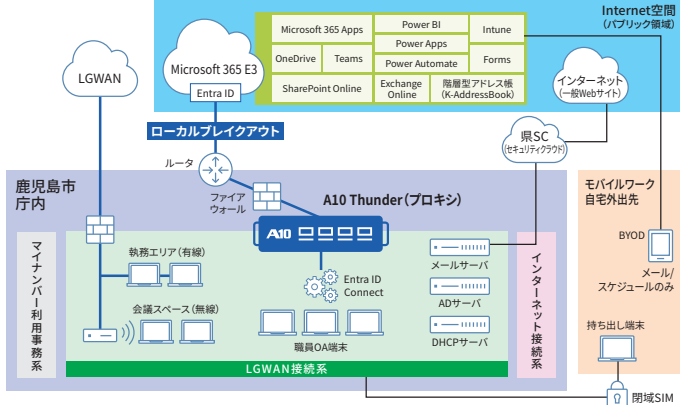
現在は、LGWAN接続系の庁内ネットワークにシングル構成でA10 Thunder CFWが設置されており、およそ4000名が利用するMicrosoft 365の認証やMicrosoft TeamsなどのWeb会議サービスへのローカルブレイクアウトを実現しています。Microsoft 365の停止が業務に与える影響が大きいことから、A10 Thunder CFWの冗長化構成への展開も予定しています。なお、セキュリティを高める目的でMicrosoft 365へのアクセスは専用の回線を用いているため、LGWAN接続系のネットワークから新たなクラウドサービスをブレイクアウトする場合は、別途インターネット回線を用意する必要があります。

鹿児島市には、桜島支所や喜入支所など距離の離れた多くの支所が点在していることから、Microsoft TeamsによるWeb会議が頻繁に開催されており、庁内の大きな会議では幹部も含めて参加しています。「本庁舎にくるまでに1時間以上かかってしまう支所もあるなか、Web会議を利用することで時間が短縮できるなど、コミュニケーション活性化にも大いに役立っています」と小段氏は評価します。

以前Web会議を実施する場合は、情報システム課が管理するインターネット接続用のモバイルルーターとタブレット端末をその都度貸し出すなど手間のかかる運用が強いられていました。現在は、職員が普段利用するLGWAN接続系端末からMicrosoft Teamsへのアクセスが可能になり、管理工数の削減にも貢献しています。「以前はデバイスの数が限定されており、予約の取り合いになってしまうケースもありました。今はこうしたストレスがなくなったと導入後のアンケートで評価の声が寄せられています」と小段氏は説明します。

また支所の幹部同士のミーティングなどは全てオンラインで実施するなど、幹部が積極的に利用する姿勢を見せています。「支所の幹部はもちろん、市長や

鹿児島市の導入イメージ図



副市長など特別職が実施するヒアリングやレクなどのシーンでも従来は紙で提供していたものを廃止し、デジタルツールで共有するなど、デジタル化への意識が全庁的に醸成されつつあります。そんなデジタル化が推進できるのも、円滑にローカルブレイクアウトできるA10 Thunder CFWが寄与している部分があります」と小西氏は高く評価します。実際、デジタル化に向けて課長職以上を中心にマインドセット研修などを実施し、効率化に向けたデジタル活用を加速させるための啓蒙活動にも取り組んでいます。

A10 Thunder CFWの使い勝手については、日本語に対応したGUIが用意されており、シンプルに設定できる点を評価します。「普段は触る機会が少ないですが、先日設定変更を行う機会がありました。触れるまでは多少難しいのではと感じていましたが、実際は簡単に設定できることから運用ハードルが下がった印象です」と小段氏は言います。「ドメイン変更に対する自動追従などもしっかり実現できています。自分たちで特別な処理をすることなく自動化できており、当初の目的通りで助かっています。短期間での導入でしたがサポートも手厚く支援いただき、安心して導入することができました」と濱田氏も評価します。

今後の展開：A10 Thunder CFWの冗長化とともにさらなるデジタル化を推し進める

今後については、信頼性の高い環境づくりに向けたA10 Thunder CFWの冗長化とともに、庁内全体のデジタルリテラシー向上に向けた啓蒙活動を継続的に実施していきたいと語ります。「情報システム課のように市長直下の組織についてはデジタルツールの活用が進んでいますが、まだ全庁的に広がっているわけではありません。いまだに紙で運用している部署もあるため、引き続きデジタル化の推進に取り組んでいきたい」と濱田氏は期待を寄せています。

また、Microsoft 365以外のサービス利用についても今後要望が増えてくるはずで、A10 Thunder CFWの用途はさらに広がっていくはずだと濱田氏は言います。「すでに現場から要望も寄せられています。今後はどんな基準で許可していくのかも含めて検討しながら、必要に応じてA10に相談しながらさらなる利活用に向けた取り組みを加速させたい」と語ります。また現状はMicrosoft 365が中心となっていますが、他の自治体が行っている事例などの情報提供にも期待を寄せています。「我々も役立つ用途への展開を進めていきたいと考えており、ユースケースも含めてA10からの情報提供に期待しています」と小西氏に今後について語っていただきました。

■ A10 Networks / A10 ネットワークス株式会社について

A10 Networks は、オンプレミス、ハイブリッドクラウド、エッジクラウド環境における、セキュリティ、インフラストラクチャの課題を解決するソリューションを提供しています。大手グローバル企業や通信、クラウド、Web サービス事業者まで7000社以上のお客様に導入いただいており、ビジネスに不可欠なアプリケーションやネットワークの安全性、可用性、効率性を高めています。A10 ネットワークスは2004年に設立されました。米国カリフォルニア州サンノゼに本社を置き、世界中のお客様にサービスを提供しています。

A10 ネットワークス株式会社はA10 Networksの日本子会社であり、お客様の意見や要望を積極的に取り入れ、革新的なアプリケーションネットワークワーキングソリューションをご提供することを使命としています。詳しくはホームページをご覧ください。

- URL : <https://www.a10networks.co.jp/>
- X (旧 Twitter) : <https://twitter.com/a10networksjp>
- Facebook : <https://www.facebook.com/A10networksjapan>

記載された内容は2024年9月時点の情報です。

Learn More About A10 Networks

お問い合わせ
[A10networks.co.jp/contact](https://www.a10networks.co.jp/contact)

A10 ネットワークス株式会社

www.a10networks.co.jp

©2024 A10 Networks, Inc. All rights reserved. A10 ロゴ、A10 Networksは米国およびその他の各国におけるA10 Networks, Inc. の商標または登録商標です。その他上記全ての商品およびサービスの名称はそれら各社の商標です。A10 Networks は本書の誤りに関して責任を負いません。A10 Networks は、予告なく本書を変更、修正、譲渡、および改訂する権利を留保します。製品の仕様や機能は、変更する場合がございますので、ご注意ください。商標について詳しくはホームページをご覧ください。 www.a10networks.com/a10-trademarks Part Number: A10-CS-Kagoshima city-01 SEP 2024